

- クセス化勧告. カレントアウェアネス. (282), 2004, 15-19. (オンライン), 入手先<<http://www.dap.ndl.go.jp/ca/modules/ca/item.php?itemid=976>>, (accessed 2006-07-25).
- (3) 尾身朝子ほか. 研究助成機関とオープンアクセス - NIH パブリックアクセスポリシーに関して. 情報管理. 48(3), 2005, 133-143.
- (4) The NIH progress report to Congress. (online), available from <[http://publicaccess.nih.gov/Final\\_Report\\_20060201.pdf](http://publicaccess.nih.gov/Final_Report_20060201.pdf)>, (accessed 2006-07-25).
- (5) NIH Author Postings (February 2006) A study to assess understanding of, and compliance with, NIH Public Access Policy. (online), available from <[http://www.alpsp.org/news/NIH\\_authorpostings\\_report.pdf](http://www.alpsp.org/news/NIH_authorpostings_report.pdf)>, (accessed 2006-07-25).
- (6) IEEE Position Statement on NIH Public Access Policy. (online), available from <[http://www.ieee.org/web/publications/rights/IEEE\\_Position\\_on\\_NIH\\_Policy.xml](http://www.ieee.org/web/publications/rights/IEEE_Position_on_NIH_Policy.xml)>, (accessed 2006-07-25).
- (7) Elsevier NIH policy statement (online), available from <[http://authors.elsevier.com/getting\\_published.html?dc=NIH](http://authors.elsevier.com/getting_published.html?dc=NIH)>, (accessed 2006-07-25).
- (8) Wiley InterScience :: Author Resources :: Journal Manuscript Submission. (online), available from <<http://www3.interscience.wiley.com/authorresources/journal-man-sub.html#natins>>, (accessed 2006-07-25).
- (9) Sale, Arthur. Comparison of content policies for institutional repositories in Australia. First Monday, 11(4), 2006. (online), available from <[http://www.firstmonday.org/issues/issue11\\_4/sale/index.html](http://www.firstmonday.org/issues/issue11_4/sale/index.html)>, (accessed 2006-07-25).

## CA1601 中国「全国文化情報資源共有プロジェクト」の現状

1. 中国「全国文化情報資源共有プロジェクト」とは  
2002年4月に文化部と財政部により始動された中国「全国文化情報資源共有プロジェクト」(全国文化信息資源共享工程。以下「共有プロジェクト」と呼ぶ)が2006年、新たな段階を迎えている。

まず共有プロジェクトについて、ウェブサイト<sup>(1)</sup>をもとに簡単に確認しておく。

共有プロジェクトは、第10期5か年計画(2001~2005年)で掲げられた文化発展に寄与すべく「中華民族が数千年来蓄積してきた各種文化情報資源の精髓」と「民衆の日常生活に密着した現代の社会文化情報資源」(「工程紹介」一. 共享工程的意義)をデジタル化して、インターネットなど現代の情報通信手段を通して、全国民に無料で提供するものである。それにより、

国際的には欧米の文化浸透に対抗して国民に自国文化を堅持させ、その文化資質を向上させるのに加え、国内的には地域間での情報資源入手の不平等の解消が目指されている。また、図書館をはじめとする文化施設の(とりわけ西部地域における)遅れた現状も取り上げられ、このプロジェクトが図書館を主とする文化施設の振興を通して、都市部と農村部の格差縮小を狙うものでもあることが示されている。

このプロジェクトのサービス主体は公共図書館が担い、国家レベル・省レベル(直轄市・自治区を含む)・基層レベル(地・県・郷・村)で、各図書館がそれぞれセンターを建設する三層構造となっている。国家センターは文化情報資源の収集、デジタル化、目録作成を行い、デジタル化された資源を省レベルセンターに配布する。省レベルセンターは地域内のサービスを統括する。目録を元に資源を選択入手し、得た資源を地区内の各基層センターに配布する。基層センターはサービスポイントとして利用者に資源を提供することが主要な役割となる。資源配布、同期の手段としては、通信網の発達した地域では、衛星通信、インターネットにより、未発達の地域では、ディスクなどの配布による(「実施内容」)。

具体的な数値目標も掲げられている。すなわち、1つの国家センター、30以上の省レベルセンター、5,000以上の基層センター(サービスポイント)を設置すること、および100万冊の文献、1,000の名作地方劇、1,000曲の音楽作品、1,000の美術作品、1,000件の貴重な文化財を電子化してインターネット上で公開すること、などである。そして、2002年から2005年までを3段階に分けて、目標設定したポイント数とデジタル資源量(総量5TB)を達成する発展計画が示されている(「実施ステップ」)。

それでは、共有プロジェクトの現状はどうなっているのだろうか。次にデジタル資源の蓄積状況と、基層センターの建設状況に絞って、概観を試みる。

### 2. デジタル資源構築の状況

共有プロジェクトに蓄積された資源総量は、2004年末までに30TBに達し<sup>(2)</sup>、2006年4月までで34TBと発表されている<sup>(3)</sup>。以下、各レベルでの資源構築の様子を若干紹介する。

#### 2.1. 国家センター

国家センターのサイトでは、文化部所管の博物館・美術館の所蔵品のデジタル画像、及び歌劇などの動画を見ることができ<sup>(4)</sup>ほか、法律・科学知識・農業・医療・歌劇・音楽・美術など約40の項目を設けて、民衆の日常生活に密着した百科的知識を提供しようとしている。そのほか、対象を限定し、そのニーズに即した項目を精選した農村版・地域コミュニティ版・企業版・青少年版<sup>(5)</sup>も作られている。

文化部の自作コンテンツもある。2005年8月には「抗日戦争专题庫」が公開された。内容は1931年前後から1945年に至る期間について11のテーマを設定し、91の事件・小テーマをピックアップして、写真画像とともに解説するものである<sup>(6)</sup>。自作コンテンツだけでなく、他のプロジェクトとの協力・リンクによる資源総量の増加も図られている<sup>(7)</sup>。

## 2.2. 省レベルセンター

現在、各省・直轄市・自治区で、32の省レベルセンターが設立されている。そのうち、少なくとも18で独自のサイトの開設が確認でき<sup>(8)</sup>、各センターとも省レベル図書館が製作したコンテンツを軸に、観光・行政情報なども掲載して、地域の特色を活かしたデジタル資源の構築を指向している<sup>(9)</sup>。例えば、浙江省の「浙江デジタル文化ネット」<sup>(10)</sup>では、文化関係ニュース、データベース資源、ネットレファレンス<sup>(11)</sup>、オンライン講座などのほか、浙江の特色あるネットワーク資源として、省内各市図書館で作成した文化情報資源とともに、省図書館が作成した浙江図書館族譜データベースが「特別推薦」されている<sup>(12)</sup>。

また、優秀な演劇作品1,000作を見られるようにするという数値目標があることから、各地で地方劇のデジタル化に力を入れている<sup>(13)</sup>。

## 2.3. 基層センター

省レベルのすぐ下にあたる地(市)レベルの図書館から、最末端の郷村レベルの文化施設までは一律基層センターと規定されている。しかし、実際にはそれらをさらに区分している地域が多い<sup>(14)</sup>ようだ。後者がセンターとは呼ばれない場合が多いのに対して、前者には、省レベルセンターに近い機能を果たし、独自のサイトを有して自ら構築した資源を公開しているところもある。例えば広東省は省内21の地レベルの市のうち、16市にセンターがあり、うち8市にサイトの存在が確認できる。清末民国期の変法派思想家梁啓超(1873-1929)の出身地である新会区を含む江門市のサイト<sup>(15)</sup>では、省センターのサイトと共通するデータベースも並べつつ、梁啓超の事跡・著作、関係の研究論文を集めたデータベース「梁啓超地方文献庫」が公開されている。

## 3. 基層センター(サービスポイント)の拡大と整備

前述の通り、プロジェクトの目標には、国家センターを中心に、地方の末端に至る中国全土に基層センターないしサービスポイントを設置すること、およびサービスポイントの役割を果たす図書館など文化施設の設備を向上させることも挙げられている。

2006年4月時点で、中国全土の共有プロジェクトのセンター及びサービスポイント総数は約4,700とされる。国家センターのサイトによれば<sup>(16)</sup>、各地域の設置状況は多い順に、広東、浙江、江蘇、山東、上海、河北、吉林となり、沿岸地域が多い。対して少ない方

では、海南、寧夏、西藏、内蒙古、青海などと続き、人口規模の差を考慮する必要はあるが、やはり内陸地域に多い。各省の経済力に大きな差がある以上、共有プロジェクトに投入される資金にも大きな差が出てこざるを得ないのは已むを得ない<sup>(17)</sup>。

また、同じ地域内であっても、センターやサービスポイントの設置は、繁華な地域に偏る傾向があることが指摘されている<sup>(18)</sup>。内陸部・農村部を中心に、中央が直接モデルポイントを設置するほか、「農村党员遠隔教育プロジェクト」など、他のプロジェクトとの連繫によりサービスポイントを拡大するなど、末端への浸透に努めているようである。

サービスポイントの設置場所は、図書館だけにとどまらない。学校・官公庁・研究所・病院・軍・監獄<sup>(19)</sup>などにも設置されている。また、吉林省では2005年から、省内最大手のネットバーのチェーンと提携して、ネットバー内に「共有プロジェクト専用ゾーン」を設置している<sup>(20)</sup>。

一方で、国民がデジタル資源を享受するためには、サービスポイントとなる図書館などの施設で、先進的な設備を導入している必要がある。各地の図書館では電子閲覧室の整備・拡大が進められているが、一部の施設では、環境を整備したのに閲覧者数が伸びない<sup>(21)</sup>、メンテナンスできる人材が不足しているといった問題が指摘されている<sup>(22)</sup>。各省レベルセンターでは、図書館職員のための訓練講座を開催している。

## 4. プロジェクトをめぐる最近の動向

このプロジェクトは2006年以降の第11期5か年計画においても引き続き重視され<sup>(23)</sup>、2006年から2020年までの「国家情報化発展戦略」にも盛り込まれており<sup>(24)</sup>、新たな展開計画が、国家レベルや省レベルで立てられている。周和平文化部副部長の最近の談話では、農村重視を強調し、2010年までにデジタル資源を100TB以上蓄積し、県レベル・郷レベルでセンターを網羅的に設置し、その下の行政村レベルでは、全体の半数にサービスポイントを設置するという目標を設定している<sup>(25)</sup>。地方でも、例えば雲南省では、2010年までに4段階に分けて、最終的に雲南の特色のある文化データベース(5TB)を製作し、全郷鎮の半数にプロジェクトのネットワークを通す計画を発表している<sup>(26)</sup>。

2006年5月からは、「文化共有 長征の旅」がスタートしている。長征完了(中国共産党の延安への到達)70周年を記念して、長征の通過ルートに当たる内陸諸地域を中心に記念活動を行いながら、その地域への共有プロジェクトの宣伝・資源投下を進めるようである<sup>(27)</sup>。これが共有プロジェクトの「種蒔き」となるのかどうか、共有プロジェクトの今後の展開が引き続き注目される。

(湯野基生 関西館資料部文献提供課)

- (1) 全国文化信息资源共享工程. (オンライン), 入手先<<http://www.ndcnc.gov.cn/>>, (参照 2006-07-21).  
以下, 文化部・財政部による 2002 年発表の実施方案を元にした内容であると思われる以下のウェブページに基づき紹介する。  
国家数字文化网. 全国文化信息资源共享工程介绍. (オンライン), 入手先<<http://www.ndcnc.gov.cn/libportal/main/libpage/gxgc/index.htm>>, (参照 2006-07-21).
- (2) 国家数字文化网: 全部资源免费 五千年文化共享. 人民日报. 2005-03-28. (オンライン), 入手先<<http://politics.people.com.cn/GB/1026/3273932.html>>, (参照 2006-07-21).
- (3) 文化共享工程“十一五”发展规划重点在农村. 新华网. 2006-06-22. (オンライン), 入手先<[http://news.xinhuanet.com/newscenter/2006-06/22/content\\_4734874.htm](http://news.xinhuanet.com/newscenter/2006-06/22/content_4734874.htm)>, (参照 2006-07-21).
- (4) 国家中心. 中央歌剧院倾情奉献歌剧唱进共享工程. 中国文化报. 2003-09-24.  
なお, 著作権上の問題は, 著作権の寄贈を募るなどの方法で解決してゆくという。  
邢宇皓. 百余学者向全国文化信息资源共享工程捐赠版权. 光明日报. 2003-07-26.
- (5) 沈路涛. 文化部针对未成年人推出内容精彩少年文化网. 2004-10-18. 中国科学院. (オンライン), 入手先<<http://www.cas.cn/html/Dir/2004/10/18/1033.htm>>, (参照 2006-07-21). ; 共享工程少年版(少年文化网). (オンライン), 入手先<<http://www.ndcnc.gov.cn/libportal/children/index.htm>>, (参照 2006-07-21).
- (6) 抗日战争专题库. (オンライン), 入手先<<http://www.ndcnc.gov.cn/libpage/kangzhan/>>, (参照 2006-07-21). ; 文化部: 中国抗日战争网上专题库正式面世. 中国新闻网. 2005-08-14. (オンライン), <<http://www.chinanews.com.cn/news/2005/2005-08-14/26/611671.shtml>>, (参照 2006-07-21).
- (7) 同じく文化部により推進されている清史編纂プロジェクト(清史纂修工程)が 2004 年 3 月に開設した「中華文史ネット」(中华文史網)は, 国家センターのサイトからも見ることができる。  
中华文史网. (オンライン), 入手先<<http://www.historychina.net/cns/index.html>>, (参照 2006-07-21).
- (8) 最近では 2006 年 6 月に貴州省センターによる「貴州デジタル文化ネット」(贵州数字文化網)が, 7 月には天津直轄市による「天津文化情報ネット」(天津文化信息网)がそれぞれオープンしている。  
贵州数字文化网. (オンライン), 入手先<<http://www.gzndc.cn/>>, (参照 2006-07-21).  
天津文化信息网. (オンライン), 入手先<<http://www.tjwh.gov.cn/>>, (参照 2006-07-21).
- (9) 富平. 全国文化信息共享工程资源建设与图书馆数字资源建设. 国家图书馆学刊. 第 4 期, 2003, 3-7.
- (10) 浙江数字文化网. (オンライン), 入手先<<http://gxgc.zjlib.cn/>>, (参照 2006-07-21).
- (11) 浙江省联合知识导航网. (オンライン), 入手先<<http://www.zjdh.org:8080/vrd/index.htm>>, (参照 2006-8-12).  
浙江図書館・浙江大学・浙江省科技信息研究院により 2005 年 12 月から開始された共同レファレンスシステム。なお, 類似の先行事例に, 広東省立中山図書館を中心とする聯合参考咨询网などがある(E424, CA1507 参照)。
- (12) 浙江存世家谱逾 6600 种. 浙江日报. 2005-09-08. (オンライン), 入手先<[http://www.zj.xinhuanet.com/newscenter/2005-09/08/content\\_5078851.htm](http://www.zj.xinhuanet.com/newscenter/2005-09/08/content_5078851.htm)>, (参照 2006-07-21).  
中国国外のものや個人所蔵分も含めると, 約 12,000 種から検索できるという。また, 冊子体で, 浙江家谱总目提要(浙江人民出版社, 2005 年 10 月)も刊行されている。
- (13) 符国伟. 彰显地方特色, 弘扬粤剧文化, 实现资源共享谈文化信息资源共享工程下建设粤剧数字资源库的构想. 图书馆界. (第 4 期), 2005-12, 35-37.
- (14) 人人共享 共创和谐—我省实施文化信息资源共享工程综述. 吉林日报. 2006-01-06. (オンライン), 入手先<<http://www.chinajilin.com.cn/2004jilinnews/doc/2006-01-10/9077.htm>>, (参照 2006-07-21).  
吉林省における共有プロジェクトの現状が簡潔に紹介されている。
- (15) 江门五邑数字文化网. (オンライン), 入手先<<http://wylib.jiangmen.gd.cn/>>, (参照 2006-07-21).
- (16) 全国文化信息资源共享工程基层点. (オンライン), 入手先<<http://www.ndcnc.gov.cn/libpage/jcd/全国文化信息资源共享工程基层点.htm>>, (参照 2006-07-21).但し集計時期は不明である。
- (17) 周岩森. 共享工程实施已近 4 年, 我省财政投入严重不足共享工程何时“共享”. 河南日报. 2006-01-18.  
演劇好きの農村の老人が共有プロジェクトを心待ちにしているというエピソードを紹介しながら, 他省と比べて少ない河南省の資金投入を問題としている。
- (18) 费东明. “共享工程”基层中心建设的问题与对策. 四川图书馆学报. 2005 年 1 期(总第 43 期), 38-40. ; 袁少如. 试论落后地区的文化信息资源共享工程建设. 图书馆学研究. 2005 年 7 号, 74-76.
- (19) 文化信息资源共享 上海将建 144 个服务点. 新华网上海频道. 2004-06-01. (オンライン), 入手先<[http://www.sh.xinhuanet.com/2004-06/01/content\\_2223965.htm](http://www.sh.xinhuanet.com/2004-06/01/content_2223965.htm)>, (参照 2006-07-21).
- (20) 吉林: “共享工程”与网吧对接. 中国文化市场网. 2006-04-26. (オンライン), 入手先<<http://www.ccm.gov.cn/netCultureChannel/main/wlwh-3.jsp?id=9694&lm=ywxw>>, (参照 2006-07-21).
- (21) 侯中才. “共享工程”为何少人“共享”. 南国都市报. 2004-08-10. (オンライン), 入手先<<http://ngdsb.hinews.com/php/20040810/21504.php>>, (参照 2006-07-21).
- (22) 凌秀丽. 齐心协力 积极推进“共享工程”建设实施的新局面—温州市文化信息共享工程建设实施分析报告. 农业图

書情報学刊. 17(1), 2005, 72-75.

(23) 文化共享工程被列入“十一五规划”. 国家数字文化网, 2006-03-18. (オンライン), 入手先<[http://www.ndenc.gov.cn/data/lib/TradeNews/2006/2006\\_03/tradenews.2006-03-18.7544267389](http://www.ndenc.gov.cn/data/lib/TradeNews/2006/2006_03/tradenews.2006-03-18.7544267389)>, (参照 2006-07-21).

(24) 文化共享工程被列入国家信息化发展战略. 人民日报. 2006-05-17. (オンライン), 入手先<[http://www.ndenc.gov.cn/data/lib/TradeNews/2006/2006\\_05/tradenews.2006-05-17.3953376405](http://www.ndenc.gov.cn/data/lib/TradeNews/2006/2006_05/tradenews.2006-05-17.3953376405)>, (参照 2006-07-21).

(25) 前掲(3).

(26) 云南省文化厅, 财政厅. 关于加强文化信息资源共享工程建设的实施方案. 2005-05-31.

(27) “文化共享长征行”启动. 中国文化报. 2006-05-19. (オンライン), 入手先<[http://www.ccnt.gov.cn/xwzx/whbzhxw/t20060519\\_26697.htm](http://www.ccnt.gov.cn/xwzx/whbzhxw/t20060519_26697.htm)>, (参照 2006-07-21).

このキャンペーンは江西省からスタートして、シンボルの紅旗をリレーしながら長征の進路を辿っている。広東省では省立中山図書館が各市図書館と協力して、広東移動図書館の樂昌分館（樂昌は長征経路地で革命根拠地があった）に、図書などを寄贈した。

“文化共享长征行・广东”红旗接力赠书活动. 广东省立中山图书馆. (オンライン), 入手先<<http://www.zslib.com.cn/cn/level3.asp?id=581>>, (参照 2006-08-12).

## CA1602

### 利用者のセグメンテーション： シンガポールにおける利用者志向の図書館戦略

#### 1. シンガポールにおける公共図書館の発展

シンガポールでは 1990 年代から、国家情報基盤 (National Information Infrastructure: NII) を整備し、インテリジェント国家を目指す“IT2000”計画を推進してきた (CA1136 参照)。この政策の下、シンガポール国立図書館委員会 (National Library Board: NLB) は、“Library2000”という青写真をもとに、公共図書館を大きく発展させてきた。

数値的に見ると、この 10 年間で公共図書館数は 4.9 倍、総蔵書冊数は 2.4 倍、総貸出冊数は 2.7 倍、来館者総数は 5.6 倍に、それぞれ増加している。最も伸び率が高いのがレファレンスを含む図書館への質問で、12.4 倍と大幅な増加を示している。コア・コンピタンスをレファレンスであると位置づけてきた戦略の成果であろう (CA1499 参照)。そして、その成功の根底にあるのは、マーケティングの手法を応用した利用者志向の図書館戦略である。

#### 2. マインドシェアとタイムシェア

マーケティングの基本戦略は、「セグメンテーション」、「ターゲティング」、「ポジショニング」であるといわれる。図書館サービスについて考えると、1) 「セ

グメンテーション」とは、利用者をいくつかの同質なセグメントに細分化すること、2) 「ターゲティング」とは、どの利用者セグメントを対象に図書館サービスを展開させるかということ、3) 「ポジショニング」とは、対象とする利用者セグメントの中に図書館サービスが独自の位置を占めることを目的に、図書館サービスとそのイメージをデザインすること、となる。か。

NLB のマーケティングの目的は、「マインドシェア」及び「タイムシェア」を高めることとされている。つまり、利用者（潜在的利用者を含む）の心理に占める図書館の占有率、利用者の時間に占める図書館の占有率を高めることである。心理的に気かけられるものは限られるであろうし、1 日に使うことのできる時間もまた限られている。限られた利用者の関心や時間を、いかにして図書館に向けることができるか、いいかえれば、ポジショニングを確定することをその目的とする。

以下、マインドシェア及びタイムシェアを高めるための前提となる「利用者セグメンテーション」について紹介したい。

#### 3. 利用者セグメンテーション

##### 3.1. 読書・学習態度による 7 つのセグメンテーション

カウ (Kau Ah Keng) らは、2003 年、シンガポールにおける図書館利用者セグメンテーションに関する研究を発表している。この研究では、15 年以上のシンガポール在住者約 800 名を対象に、パーソナル・インタビューを行い、その結果をクラスター分析することによって利用者セグメンテーションを行っている。

質問事項は、1) 生活に対する一般的姿勢、2) 学習や読書に対する姿勢、3) どの位の頻度で図書を読むか、図書館に登録しているか、図書館によく行くか、など図書館利用に関する生活様式、4) 年齢や性別など、人口統計学上のプロフィール、の 4 セクションに分別される。

一般的に図書館は、読書や学習を目的として利用されるものである。よって、読書や学習に対する姿勢や欲求、学習の重要性への認識、図書館の利用、情報検索や学習のための情報通信技術を使いこなす能力、などに関する質問に対する回答を分析することによって、利用者セグメンテーションを行うことができると考えられる。カウらは、この読書・学習態度に関する質問の回答を中心に利用者を、1) キャリア志向型 (Career minded)、2) 積極的情報探索型 (Active Info-Seeker)、3) 自己供給型 (Self-Supplier)、4) カジュアル読書型 (Casual Reader)、5) 目的学習型 (Narrow-focused learner)、6) 低意欲型 (Low Motivator)、7) ファシリテーター (Facilitator) の 7 つのセグメントに分けている。

図書館登録の割合を比べると、「カジュアル読書型」及び「目的学習型」が比較的高い。このことから、ナラヤナン (Narayanan, N. Varaprasad) らは、NLB は“Library2000”以降、「カジュアル読書型」及び「目